

別紙標準様式（第6条関係）

会 議 録

会議の名称	第39期 第1回 枚方市社会教育委員会議		
開催日時	令和7年11月13日（木）	開始時刻	10時00分
		終了時刻	11時50分
開催場所	枚方市役所 別館 第3委員会室		
出席者	<p>【委員】原田隆史議長、森常人副議長、虎杖利和委員、妹尾忍委員、橋本有理子委員、花崎有紀子委員、弓手恵委員、米田健人委員、若田透委員</p> <p>【事務局】増尾総合教育部長、大西総合教育部次長</p> <p>教育政策課／笠井課長、高松課長代理、仁後係長、大前係長、土橋係員</p> <p>中央図書館／亀野館長、中御門課長代理、川端課長代理</p>		
欠席者	栗山直子委員、牧村剛委員、森美由紀委員		
案 件 名	<p>1. 議長・副議長の選出について</p> <p>2. 令和6・7年度 教育政策課の社会教育事業について</p> <p>3. 枚方市立図書館の事業について</p> <p> (1) 枚方市立図書館第4次グランドビジョンについて</p> <p> (2) 令和6年度（2024年度）第4次枚方市子ども読書活動推進計画の進捗状況について</p> <p> (3) 令和7年度（2025年度）図書館サービスに関する窓口アンケートの結果について</p> <p>4. その他</p>		
提出された資料等の名称	<p>資料1 第39期 枚方市社会教育委員名簿</p> <p>資料2－1 令和6・7年度 教育政策課の社会教育事業について</p> <p>資料2－2 令和6・7年度 社会教育事業一覧</p> <p>資料3－1 枚方市立図書館第4次グランドビジョン（修正案：修正箇所網掛け）</p> <p>資料3－2 枚方市立図書館第4次グランドビジョン</p> <p>資料4－1 令和6年度（2024年度）枚方市立図書館第4次グランドビジョン進捗状況</p> <p>資料4－2 [参考資料] 令和6年度（2024年度）枚方市立図書館第4次グランドビジョン取組実績一覧</p> <p>資料5－1 令和6年度（2024年度）第4次枚方市子ども読書活動推進計画進捗状況</p> <p>資料5－2 [参考資料] 令和6年度（2024年度）第4次枚方市子ども読書活動推進計画取組実績一覧</p>		

	<p>資料 6 令和 7 年度（2025 年度）図書館サービスに関する窓口アンケート集計結果（全館合計）</p> <p>参考資料 1 第 39 期 第 1 回 枚方市社会教育委員会議の事務局体制</p> <p>参考資料 2 社会教育法（抜粋）</p> <p>参考資料 3 枚方市社会教育委員設置条例</p> <p>参考資料 4 枚方市社会教育委員会議運営要項</p> <p>参考資料 5 枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程</p> <p>参考資料 6 枚方市社会教育委員会議を傍聴される方へのお願い</p>
決 定 事 項	－
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	2 人
所管部署 （事務局）	教育政策課
審 議 内 容	
事務局	<p>ただいまから「第 39 期第 1 回社会教育委員会議」を始めさせていただきます。委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。私は、事務局を担当させていただいております教育政策課課長の笠井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、第 1 回の会議のため、議長が選出されるまでの間、事務局の方で進行を務めさせていただきます。なお、本会議では、会議録の作成のため、会議内容を録音させていただいております。あらかじめ、ご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします申し上げます。また、本会議につきましては、事務局の方で公開とさせていただきます。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。後ほど、今後の運営方法などについて、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>開会にあたりまして、総合教育部長の増尾より、一言、挨拶をさせていただきます。それでは、増尾部長、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>委員の皆さま、こんにちは。総合教育部長の増尾でございます。第 39 期第 1 回枚方市社会教育委員会議の開催にあたりまして、本来ならば教育長がご挨拶を申し上げるところではございますが、他の公務のため、代わって私からご挨拶申し上げます。</p> <p>はじめに、このたびは、委員にご就任いただきまして、心からお礼申し上げます。今期は、前の第 38 期に引き続き委員をお願いした方が 10 名、新たに委員をお願いした方が 2 名、計 12 名の方に社会教育委員にご就任いただきました。任期につきましては、令和 9 年の 7 月末日までとなっております。皆様には、高齢者を含む成人教育や家庭教育、図書館サービス等のテーマについて、委員それぞれの専門的な見地から、ご意見を賜りたいと考えております。</p>

事務局	<p>委員の皆様におかれましては、本市の社会教育の進展のため、ご協力いただきますようお願いを申し上げ、簡単ではございますが、会議の開催にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の資料でございますが、事前に送付した資料をご持参いただきますようお願いをしておりましたが、皆様、お手元でございますでしょうか。もし本日、お持ちでない方、又はお送りした資料に不足等がございました場合は、予備をご用意しておりますので、必要な方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>それでは、恐れ入りますが、「資料 1 第 39 期 枚方市社会教育委員名簿」によりまして、50 音順に各委員のご紹介をさせていただきます。</p> <p>まずはじめに、枚方市小学校長会、虎杖 利和委員でございます。</p> <p>次の、追手門学院大学、栗山 直子委員につきましては、所用のため、欠席でございます。</p> <p>次に、枚方市民生委員児童委員協議会、妹尾 忍委員でございます。</p> <p>次に、京都女子大学、橋本 有理子委員でございます。</p> <p>次に、ほっとホット絵本、花崎 有紀子委員でございます。</p> <p>次に、八洲学園大学、原田 隆史委員でございます。</p> <p>次の、枚方市 P T A 協議会、牧村 剛委員につきましては、所用のため、欠席でございます。</p> <p>次に、関西外国語大学、森 常人委員でございます。</p> <p>次の、梅花女子大学、森 美由紀委員につきましては、所用のため、欠席でございます。</p> <p>次に、公益財団法人枚方市スポーツ協会、弓手 恵委員でございます。</p> <p>次に、一般社団法人枚方青年会議所、米田 健人委員でございます。</p> <p>次に、枚方市立中学校長会、若田 透委員でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
事務局	<p>また、事務局職員につきましては、お手元の参考資料 1 「第 39 期第 1 回枚方市社会教育委員会会議の事務局体制」に記載のとおりでございます。また、本日の出席者につきましては、座席表に記載しているとおりでございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、会議の議事に移りたいと思います。まず事務局から本日の委員の出席状況を報告いたします。</p>
事務局	<p>本日の委員の出席状況は、委員 12 人中 9 人の委員が出席されておられます。枚方市社会教育委員会会議運営要項第 5 条により、過半数の出席がございますので、会議が成立していることを報告させていただきます。</p>
事務局	<p>それではここで、「枚方市社会教育委員」及び「社会教育委員会会議」について、事務局より簡単に説明をさせていただきます。</p>
事務局	<p>それでは、参考資料 2 「社会教育法（抜粋）」をご覧ください。こちらは、社会教育法にある社会教育委員に係る規定をまとめたものでございます。第 15 条第 2 項では、「社会教育委員は教育委員会が委嘱する」とされ、その職務につきましては、「社会教育に関する諸計画を立案すること」のほか、第 17 条にあるとおりでございますが、本市の社会教育員会議では、成人教育、家庭教育、図書館サービスなどがご検討いただく主な事務の範囲となります。後ほど、案件 2 においてもご説明いたしますが、該当事務の所管課は、教育政策課と中央図書館でございます。</p>

続いて、参考資料 3「枚方市社会教育委員 設置条例」をご覧ください。委員の定数、任期、再任などについて定めております。

次に、参考資料 4「枚方市社会教育委員会 運営要項」をご覧ください。第 2 条第 1 項では、会議のため、委員の互選により議長及び副議長各 1 名を置くこととしております。第 2 項では、議長が会議を招集し、その運営にあたりとされ、第 3 項では、副議長が議長を補佐し、議長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行するとされております。また、第 5 条においては、会議は委員の過半数の出席を得て開くものとするとしております。

事務局 ただ今の事務局の社会教育委員会に関する説明について、何かご不明な点などございますか？

＜なし＞

事務局 それでは、案件の 1「議長・副議長の選出について」を議題とさせていただきます。

枚方市社会教育委員会 運営要項 第 2 条により、本会議には、委員の互選により議長及び副議長各 1 名を置くことと定めておりますが、委員の皆様から、ご推薦などのご意見はございますでしょうか。

＜意見なし＞

もしよろしければ、事務局の方から議長選出の提案をさせていただいてもよろしいでしょうか。

＜意義なし＞

ありがとうございます。事務局といたしましては、今回、5 期目となります八洲学園大学の原田隆史委員に、第 38 期に引き続き議長をお願いしたいと思っております。皆様、いかがでしょうか。

＜意義なし＞

ありがとうございます。では、本会議の議長につきましては、原田委員にお願いしたいと思います。それでは、原田議長、恐れ入りますが、前の議長席の方にご移動をお願いいたします。

早速ではございますが、原田議長、就任に当たりまして、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

原田議長 ただ今、本会議の議長に選出いただきました原田でございます。第 38 期に続きまして議長を務めさせていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

専門は、図書館情報学という学問分野でございまして、図書館の評価や図書館システムを専門としております。昨今、いろいろな図書館について、新しい図書館ができたり、図書館の合築、さらには静かにしなくてもよい図書館というものを作られたりということで、話題になることが多い状況でございます。昨今、図書館に関わらず、様々な社会教育施設においても大きな変化が起こっているのは、社会の変化を表しているのかなと思います。枚方市におきましても、様々な状況に合わせて社会教育のより良い姿を検討していくということで、皆様方からいろいろなご意見をいただきながら、新しい様々な活動について議論していければと思っております。皆様のご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは、以降の進行を原田議長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

原田議長 さっそくではありますが、案件 1 の副議長の選出を行います。ご推薦はございますか。

<推薦なし>

ご推薦がないようですので、私の方から、今回５期目で関西外国語大学の森
常人委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

<意義なし>

それでは、森委員、副議長の席のほうに移動をお願いいたします。

それでは、副議長から一言ご挨拶をいただければと思います。よろしくお願
いします。

森副議長 ただ今、副議長に選出されました森常人と申します。今期で５期目になります
が、原田議長とともに、枚方市の社会教育自体がより良くなるように、皆様と活
発な議論ができればと思います。私自身は、まちづくりや高齢者政策が専門にな
りますので、今年度、高齢者の虐待を防ぐということもテーマにされているとい
うことで、そのあたりから専門的な意見等もお伝えできればと思います。どうぞ
よろしくお願いいたします。

原田議長 ありがとうございます。では、次の議案に入ります前に、今後の会議の運営方
法について、事務局から説明をお願いします。本日は、既に公開で進めていま
すが、今後、会議を進めるに際し、皆様と確認したいと思います。

事務局 では、参考資料５「枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程」をご覧く
ださい。第２条に、この規程の対象となる会議体が挙げられており、本会議は、こ
れらのいずれにも該当しないものの、類似する会議体ですので、この規程にな
らって手続きを進めたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

<意義なし>

ありがとうございます。

それでは、２ページ、第３条「会議の公開の決定等」ですが、会議は、「ただ
し書き」に該当しない限り公開するものとされ、本会議は、この「ただし書き」
には該当しないので、公開とさせていただいております。

次に、第４条は「会議の公開の方法等」を定めており、この規定にならい、公
開を行います。このうち第４項では、傍聴に係る手続その他必要な事項を決定す
ることとされており、本日も「枚方市社会教育委員会会議を傍聴される方への願
い」として注意事項等を定めております。また、第５項は、傍聴者に対する資料
の取扱いが規定され、会議資料については、傍聴者の閲覧に供し、又は傍聴者
に配布するように努めなければならないとされていますので、今後は、原則とし
て、配布させていただきたいと考えております。なお、傍聴の手続きとしては、
会議の開始前に、「枚方市社会教育委員会会議を傍聴される方へのお願い」をお渡
しすることとします。定員は、会場の都合がありますので、事務局で開催日ごと
に調整させていただきたいと思います。

なお、本日は、傍聴の方が２名いらっしゃいますので、ご報告いたします。

次に、３ページ、第６条の「会議録の作成」に関してですが、４ページの第４
項にございますとおり、会議の公開・非公開にかかわらず、発言者および発言内
容を明らかにした会議録を作成することとされております。

また、第７条は「会議録の公表」に関する規定であります。会議録について
は、非公開事由に当たらない場合は、各委員の承認を経て、これを正式な会議録
として、ホームページ等で公開していく予定でございます。

ご説明は以上でございます。

原田議長 ご意見、ご質問等ございませんか？

<意見なし>

	<p>それでは、第 39 期の会議運営についての確認を行いましたので、今後、そのように進めていくこととします。</p>
原田議長	<p>続きまして、案件 2「令和 6・7 年度 教育政策課の社会教育事業」について、担当課から説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>それでは、案件 2 のご説明の前に、新たに委員となられた方もいらっしゃいますので、「本市の社会教育行政」について簡単にご説明申し上げます。</p>
	<p>本市の社会教育は、平成 18 年に行われた生涯学習推進体制の再編により、生涯学習推進の一翼としての役割を果たすべきものとされるとともに、「学習する主体を育てるための基礎的な部分」つまり「人が地域で生活するのに必要な基礎的な知識や技術の教育」を担うものとされました。なお、本市の生涯学習の推進体制は、現在、市長部局である文化生涯学習課、附属機関である生涯学習推進審議会、そして市内 9 か所の生涯学習市民センターで構成され、生涯学習による市民との協働のまちづくりを推進しております。</p>
	<p>その後、令和 2 年度の機構改革により、文化財とスポーツに関する事務が市長部局に移管されましたので、この会議でご検討いただく主な範疇といたしましては、成人教育、青少年教育の分野にわたる各種講座と図書館サービスとなります。また、該当事務の所管課は、教育政策課と中央図書館でございます。</p>
	<p>以上が簡単ではございますが、「本市の社会教育行政」でございます。</p>
	<p>それでは、改めまして、案件 2「令和 6・7 年度 教育政策課の社会教育事業」について、ご説明申し上げます。</p>
	<p>資料 2-1 をご覧ください。</p>
	<p>この資料は、教育政策課が実施する社会教育事業の概要をお示しするものです。教育政策課では、大別して、社会教育人権啓発事業と社会教育主催事業の 2 種類の事業を行っております。</p>
	<p>最初に、資料の「1. 社会教育人権啓発事業」としましては、①社会教育（人権）講座、②朝鮮語教室、③枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」、④講座「生きること」がございます。</p>
	<p>なかでも、③の枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」は、日本人の「識字」教室であるとともに、外国人を対象に、日常生活において必要となる「日本語」を学ぶ機会だけでなく、日本文化に触れる機会も提供する事業です。現在、市内 6 か所の生涯学習市民センターで実施しており、「まきの教室」では週 3 回、その他の 5 教室では週 2 回実施しています。なお、週 3 回実施している「まきの教室」については、学習者数など、他の 5 教室とのバランスを考慮して、週 2 回実施に変更するとともに、全教室を対象に学習者の増加に応じて開催日数を増やせるように調整しております。</p>
	<p>次に、④の講座「生きること」は、枚方人権まちづくり協会などと合同で開催している事業でございまして、さまざまな体験や活動をしておられる講師にお越しいただき、自分のこれまでの人生を一人称で語っていただく事業です。</p>
	<p>次に、2 ページ目の「2. 社会教育主催事業」です。この社会教育主催事業は、大きくは、①社会教育基礎講座と②家庭教育支援事業がございます。</p>
	<p>このうち、①社会教育基礎講座は、人が地域で生活していくために必要な、基礎的な知識や技術を学ぶ機会を提供するもので、毎年度、共通テーマを設定し、事業を実施しています。令和 6 年度は「すこやかに生きる」をテーマとし、毎日の生活を健康的に過ごすために参考にしていただける講座を実施しました。また、今年度は、「老いに備える」をテーマとし、相続や終活など、自分や身近な</p>

人の老いに備えてあらかじめ知っておくべき知識を学んでいただける講座を実施しました。

また、②家庭教育支援事業としましては、「a.子育て応援！親学び講座」、「b.親を考えるセミナー」、「c.思春期セミナー」、「d.親子で参加講座」、「e.枚方市PTA協議会との共催事業である家庭教育講演会」がごございます。このうち、「a.子育て応援！親学び講座」は、大阪府の養成講座を受講した親学びリーダーがファシリテーターとなって、少人数の座談会形式の講座を開催しています。今年度、親学びリーダーの後進育成などを目的として、親学びリーダー養成講座を開催し、新たに5名の方が親学びリーダーとして活動していただけることになりました。

次に、教育政策課のその他の所管事業として、「成人の日」に「はたちのつどい」を実施しております。

以上が教育政策課の社会教育事業の概要でございます。

3ページには、参考資料といたしまして、市長部局で実施している社会教育事業を掲載しております。

次に、資料2-2「令和6・7年度 社会教育事業一覧」をご覧ください。この表は、資料2-1の事業についての具体的な取り組み内容を記載しております。現時点での実績をお示ししております。

初めに、資料1ページ目の「1. 社会教育人権啓発事業」につきましては、それぞれ記載内容のとおりでございます。

次に、2ページ目の「2. 社会教育主催事業」のうち「①社会教育基礎講座」ですが、今年度は、「老いに備える」というテーマに沿って、相続・終活・誤嚥のリスクについての講座を実施しました。このうち誤嚥のリスクについての講座は、市立ひらかた病院の職員に協力してもらい、昨年度に引き続き、オンデマンド配信により実施することができました。

次に、3ページ目の「②家庭教育支援事業」をご覧ください。

「a.子育て応援！親学び講座」ですが、【公開講座】と【出前講座】の2種類がございます。このうち【公開講座】は、広報ひらかたやSNS等を通じて、広く一般に参加者を募集する講座で、基本的には乳幼児の保護者向けの内容です。令和6年度の【公開講座】の欄をご覧くださいますと、「いざという時に役に立つ乳幼児向け応急手当講座&子育て座談会」とございまして、この「子育て座談会」というのが「子育て応援！親学び講座」のことでございます。この親学び講座は、大阪府が作成した子育ての「あるある集」を題材にして、参加者同士が気楽に話すことで、子育ての不安を解消したり、子育てをもっと楽しめるようになってもらうための座談会形式の講座です。定員や参加実績が少ないのは、少人数の座談会形式であるためです。また、【公開講座】では、乳幼児向けの応急手当講座のように、乳幼児の保護者にとって関心の高い内容とのセット講座にすることで、参加者を増やす工夫をしております。次に、【出前講座】は、市内の子育てサークルやPTA等から親学びリーダーの派遣依頼を受けて実施する講座で、派遣依頼がなければ実施はゼロということになります。今年度は、中学校のPTAから派遣依頼があり、先日実施いたしました。

続きまして、「b.親を考えるセミナー」ですが、令和6年度は、哲学者の小川仁志先生をお招きして、子どもが「深く考える力」や「生きる力」を身につけられるようにするためにはどうすればいいのかについて、参加者と対話をしながらお話しいただきました。多くの大人の参加者に交じって、小学生が積極的に手

を挙げて意見を言ってくれた時には、大人では思いつかないような意見が出て、周りの大人が驚くという場面もあり、非常におもしろい対話ができたと思います。今年度の親を考えるセミナーについては、現在検討中でございます。

続きまして、「c. 思春期セミナー」でございますが、今年度は「思春期を科学する」というタイトルで、包括的性教育をテーマに開催しました。包括的性教育は、人間関係や人権、性の多様性、ジェンダー平等など、従来の性教育よりも幅広いテーマを扱い、性を大切にするために必要な知識を身に付けようとするものです。思春期の子どもを持つ保護者が、性教育に関する知識をアップデートし、ご家庭で子どもと安心して向き合うためのヒントを学んでいただける講座でした。

4 ページ目の「d. 親子で参加講座」は、夏休みには、ペットボトルで地震計を作る講座を開催しました。春休みには、廃材を利用した木工教室を開催する予定です。

「e. 教育講演会」につきましては、今年度は、重度脳性麻痺のわが子を誰よりも自分を信用できる子に育てようと奮闘された畠山織恵さんをお招きすることになっておりまして、現在、PTA協議会と内容等の調整を行っております。

また、5 ページ以降は、参考までに講座のチラシ等を載せております。

以上、簡単ではございますが、案件2「令和6・7年度 教育政策課の社会教育事業」についての、ご説明とさせていただきます。

今年度の取り組みや、今後取り上げた方がよいと思われる講座内容など、広くご意見をいただき、今後の取り組みにつなげてまいりたいと考えております。また、市長部局で実施している文化財やスポーツに関する事業に関しましてご意見を頂戴した場合には、担当部署に伝えたくて対応させていただきますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

原田議長

担当課の説明に対して、何かご意見、ご質問等、ございませんでしょうか？

原田議長

「よみかき」のまきの教室について、他の教室とのバランスから週2回とするということですが、その後ろの部分で、全教室を対象に開催日数を増やせるように調整中とあります。これは全教室を対象に週3回に増やすことを目的にするのではないですね。前のまきの教室については減らす話だったのが、後ろでは増やす話が出てきて、どうバランスをとるのかわからなかったのですが。

事務局

まきの教室につきましては、他の教室と比べて、かつては学習者数が多いという状況があったのですが、現在では他の教室よりも少し少ないという状況でして、週3回というのが他の教室と比べて多いという状況でしたので、まきの教室を週2回に減らすということで調整をする。一方で、他の教室につきましても、「まきの教室の学習者が減ったので講座の回数を減らしたい」というお話をさせていただいた時に、「では学習者が増えた時にどうするのかというのも考えないといけないのではないか」というご指摘をいただきました。これは指定管理事業になりますので、文化生涯学習課とも協議をいたしまして、指定管理者との協定の範囲内で、現在週2回にしているのですが、週3回とまではいかないのですが、臨時で4コマ、現在週2回で年間87コマの講座をしていただいているのですが、これを協定書の範囲で91コマまで増やして構わないということで協議が整いましたので、いずれの教室につきましても、まきの教室も含めてですが、87コマから91コマの間で各生涯学習市民センターの状況に合わせて開講コマを増やしてよいという調整をさせていただく予定としております。

原田議長

ということは、全教室を週2回にする。それによって、プラスアルファの余力

事務局 原田議長	<p>を作って、余力の部分を増やすということでしょうか。</p> <p>そうです。</p> <p>わかりました。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>二つ目に、朝鮮語教室というのが挙がっていますが、これは春学期というか、前期だけでしょうか。というのは、まだ途中のはずなのに、実施回数 40 回、定員 40 人、参加実績が 39 人になっています。これはすでに終わったのか、それとも年間を通して、これだけいらっしゃることが想定されているということなのか、他に理由があるのか、ちょっと読み方がわからなかったのですが。</p> <p>これは年間を通じての講座でして、実施回数 40 回とあるのは、40 回の開催日がすでに決まっているということです。</p>
原田議長	<p>40 回の方はわかったのですが、参加実績 39 人が確定しているのが不思議だと思ったのですが、これは年間を通じての申し込み制だからですね。</p>
事務局 原田議長	<p>そうです。</p> <p>もう一点、社会教育基礎講座の満足度についてお聞きします。昨年度と事業名・テーマが変わっているの、当然状況は変わるといいますし、満足度というのが必ずしも実態を表しているというわけではないと思います。また、満足度 80 とか 90 というのは普通に変動する範囲だというのはわかるのですが、今回はあまりにも満足度が低い状況になっていて、何かこのあたり実施されている中で問題もしくは希望者との間の何らかの乖離があった等があれば教えていただきたいと思います。何か分析されておられますでしょうか。</p>
事務局	<p>この「将来のための相続準備」という講座を実施した際の講演内容についてですが、2 時間の講座でしたが、2 時間の中でかなり速いスピードでかなりボリュームの多い内容となっておりまして、参加された方がついて行けてないということがございました。アンケート結果でも、回答者 29 名のうち、「大変よかった」が 4 名、「よかった」が 9 名、「ふつう」が 11 名ということで、「ふつう」と回答した方が多かったという事実がございましたので、スピードが速かったとかボリュームが多かったというのがこのような満足度に繋がったのかなと担当レベルでは考えております。</p>
原田議長	<p>ありがとうございます。この手の講演会の場合には、一般的に「満足」の方に〇が付くことが多くて、一方で、相談と言いますか、自分に近いテーマの場合には、情報が得られれば「ふつう」と答える方が多い感じで、評価が分かれるのは当然かと思えます。なので、それ自身は問題ないのかなと個人的には思います。一方で、今のような分析があったとするならば、オンデマンドも含めて、時間をゆっくりかけて見ることができるよう体制というものも、このテーマについては望まれているということも考えられると思います。一度行って終わりというのではなくて、実際にその後いらっしゃった方の感想等から、後から見るのが望ましいものなのかどうか等を検討していただいて、特にこのテーマの場合には、来るのは大変だけれども聞きたいという方が他にもいらっしゃる気がしますので、他の事業でもオンデマンドを活用されているのであれば、その仕組みをこちらでも適用できるのかをご検討いただければと思います。</p>
森副議長	<p>私ばかりしゃべっておりますので、各委員の皆様もご意見等いただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>様々な講座をされていると思いますが、やはり講座を認知していただくことが大切であると私自身は考えております。また、すべての講座ではないですが、ほとんどの講座に定員を設けられていると思いますし、定員に近い参加実績</p>

がある講座が多いと思いますけれども、この定員というのは、もちろん会場のキャパの問題もあると思いますが、ここが市としても目標値というか、これぐらい来てもらえればある程度成功だったかなというふうに定員を設定されているのかというのが一つお伺いしたいのと、もう一つは、実際に存在を知るツールとして、LINEやチラシ、広報ということが書かれていますが、この辺りは正直評価するのが難しいところがあると思いますが、より知ってもらうために何かしていくなど、考え等がありましたら教えていただけるでしょうか。

事務局

定員につきましては、おっしゃっていただきましたように会場のキャパの問題がありますので、その数値はもちろん目標とはしておりますけれども、これが望ましい水準と考えているかといえば必ずしもそうではありません。立地につきましては、駅周辺で参加していただきやすい場所を選定したりですとか、たくさんの方にご参加いただけるようにという配慮はしておりますけれども、必ずしもゴールと考えているというわけではありません。講座によっては、たくさんの来場が見込まれる場合、いわゆる有名な方を講師としてお招きできた場合には、少し大きめの会場を選定したりということはしておりますけれども、ゴールと考えているわけではないというのは、やはりキャパということが大きいと考えております。

周知方法につきましては、広報ひらかたやSNSとか、もちろん一般的な手段というのは使っているのですが、もう少しターゲットを絞ったような周知の仕方というのはいくつか工夫をしております、子ども向けのものであれば学校を通じて周知をお願いするとか、保護者向けのものであればPTAを通じてというように、周知媒体もあります。ターゲットをもう少し絞って周知に努めて、できるだけピンポイントでそのテーマに興味を持っていただける方に情報が行く工夫はしております。ただ、それが具体的な伸びに繋がっているかということと自信をもっては言えませんが、事務局としても工夫をしているという状況でございます。

森副議長

ありがとうございます。知っていただければ、もっと興味を持っていただけるような内容だと資料を見させていただいて感じますので、来てもらうためには知ってもらうというのが一番だと思いますし、もちろん難しいところがあるというのは存じているつもりではありますが、どうやればもっと増えるかということを活発に皆さんで考えていけたらと感じたので、質問させていただきました。ありがとうございます。

原田議長

どこの事業もそうですが、やはり知っていただくのが一番大変で、こういう会議等を開いた時に、ここに来てこの場でこれを知ったのが一番の収穫だと言われてしまうこともあるくらいです。そういう意味で、いかにして周知するのかというのが大きな課題だと思います。分析のし過ぎは逆効果だとも思いますが、例えば、いつのタイミングでどこに情報をまくのがいいのかですとか、そういう話も含めてご検討いただければと思います。増えた減ったの話で一喜一憂するのではないというのはありますが、来てもらうことのためにぜひご協力いただければと思いますので、よろしくお願いします。

森先生、ありがとうございます。知ってもらうということも含めて大事なお話だと思います。

とはいえ、この社会教育事業そのものが数多く行われているというのは、非常に活発にされているということかなと思いますし、正直言ってこんなにたくさんいろいろやっているというお話を知ってらっしゃらない方も多いという気もしま

	<p>すので、その辺りを市民の方々に伝えられる方法を考えられればいいですね。</p> <p>他にご意見等いただければと思います。よろしくお願いします。それぞれのお立場でなくても構いませんので、ぜひ社会教育事業全般に関しての話でも結構ですし、個別の事業の話でも結構でございますので、お願いできればと思います。</p>
橋本委員	<p>枚方市の方でもエンディングノートがあると聞いたのですが、配布場所は市役所の中だけなのでしょうか。私も教員になる前は公共施設で相談員をしていたのですが、実際に皆さんいざとなった途端に、これからどういう風に何をしようかということを経験している戸惑いもあるので、何か起こる前から家族も含めてこれからのことをどういう風に整理していくかという時に、エンディングノートは大事だと思います。市内でもいろんな所で手に入りやすいものなのか。市役所だけですと、市役所に行くのはなかなか難しいというのもあるので、例えば病院とか、いろんな所で手に取れるようになればいいなと思っているのですが、どういう状況なのかなというのが質問です。</p>
事務局	<p>エンディングノートについては、健康づくり課が担当部署になっておりまして、市で作成しているエンディングノートの配架場所につきましては、健康づくり課の事務所と市内に 13 か所あります地域包括支援センター、市内 9 か所のまちかどデイハウス、これはすべてというわけではないと思いますが、今申し上げたところで現在手に入る状態になっています。</p>
橋本委員	<p>まちかどデイハウスは介護保険とは関係ない部分だとは思いますが、地域包括支援センターはどうしても介護のことが出てきてから接触する所でもあるので、できたら病院とか、気軽に皆さんが行けるような所に配置ができればいいのではないかなと。そうなると思うのですがあちこち取られてしまうかもしれないですけども、でも私はそういうのがすごく大事だと思っていて、エンディングという表現もあまりポジティブじゃないからかもしれないですが、そういうことを考えるということはイコール自分の死と向き合うということになるので、正直家族から言いにくい部分もあって、自分たちが病院に行った時でも気軽にパッと取れるような感じであつたらいいなと思っています。</p>
原田議長	<p>ありがとうございます。その通りだと思います。家族が亡くなった時に、いろんな書類がどこにあるのか全く分からなくて、その時に書いておいてくれたらよかったのだということもあります。今おっしゃっていただいたように、取りに行ってくださいと家族が言いにくいこともありますので、例えば、何歳とか決めて配布してしまうのも一つの手かだと思いますし、ある時期になったら自動的にプッシュできる、つまり、こういうものがありますよという告知だけでもする手もあるかもしれません。もちろん、それがあなたは死が近いですととられてしまうと困りますので、単に機械的に何歳になったから送られるというようなことが周知されることとセットだと思いますが、市から提供するような、そういう情報提供だけでもしていただければいいですね。また、その時に具体的な取得の仕方も含めて書いていただければ、家族もこういうのが来ているからと伝えやすいと思います。ぜひ伝えやすさですとか、周りの人が告知しやすいかということも含めてご検討いただけるといいなと思っています。ありがとうございます。</p> <p>令和 7 年度のテーマが、社会教育基礎講座の方は特に老後ですとか相続ですとか、そういうのが出ておりますけれども、これは今年に限っての話ではないと思います。来年以降も違うテーマに変えられるのであるとするならば、今年のものに関して、数年間は見ることができる仕組みも整備しておいていただけるといい</p>

原田議長

ですね。今年ではなく来年に関わることになる人が急に出てくる話だと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

後ほどまたこの話に戻るかもしれませんが、その時に思い出されたらご発言いただけたらと思います。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。担当課におきましては、今後の検討につなげていただければと思います。

続いて、案件３の「枚方市立図書館の事業」のうち、「(1)枚方市立図書館第４次グランドビジョン」について、担当課から説明をお願いしたいと思います。

事務局

この案件につきましては、第４次グランドビジョンの修正と令和６年度の進捗状況の２点について、ご説明いたします。

まず、第４次グランドビジョンの修正につきましては、資料３－１と資料３－２が説明資料となります。資料３－１が修正案で、主な修正部分には網掛けを行っています。資料３－２は現在の第４次グランドビジョンとなります。

グランドビジョンは、枚方市立図書館の目指す姿、運営方針、具体的な取組を示したものとします。現行ビジョンの期間は令和３年度から９年度までの７年間で、社会情勢の変化などに応じて、概ね４年を目途に必要な見直しを行うこととしています。現行ビジョンの５年目にあたる令和７年度の状況としましては、昨年度、市駅前図書館のオープンに合わせて開始した市内全館へのＩＣタグシステム導入がまだ進行中であり、現時点では、統計数値、施設一覧など、事実関係に係る更新が必要な部分について、修正を行うものです。

資料３－１、修正案の目次をご覧ください。

第４章から第６章まではビジョンの核となる部分であり、計画の最終年度まで、このまま引き続き、取り組みを進めてまいります。第１章と第２章につきましては、統計数値の更新、市駅前図書館の開館に伴う施設一覧の修正、関連計画の改訂を踏まえた文言整理などを行います。

それでは、主な修正点について、ご説明いたします。

まず５ページ中ほど「(2)施設等の状況」をご覧ください。

真ん中の列、香里ヶ丘図書館以下の分館に、令和６年９月オープンの市駅前図書館を追加しました。全８分館は指定管理者による運営となっています。市駅前図書館は小規模ではありますが、枚方市駅周辺再整備の一環として、駅直結の複合施設ステーションヒル枚方の行政サービスフロアにオープンしました、これまでにない立地の図書館です。右の列、枚方公園分室以下の分室は、市駅前図書館のオープンに伴い、市駅前サービススポットが閉室して６分室となりました。左の列、中央図書館はグループ制から係制に再編されております。

次に８ページから１０ページ、「(3)サービス状況の推移」をご覧ください。

現行ビジョンでは平成２７年度から平成３１年度までの５年間の統計が記載されていますので、今回、平成３０年度から令和６年度まで、直近７年間の統計に更新しました。統計全体に関することとして、令和２年度は、新型コロナウイルスの拡大防止対策として、図書館のサービスを一時停止し、予約資料の貸出のみを行っていた時期がありましたので、予約件数以外が大きく落ち込んでいます。また、棒グラフで示した枚方市の人口はこの７年間で１万人弱、減少していますが、折れ線グラフで示した図書館の利用は増加傾向が続いています。

１０ページの「⑤年齢別延利用者率」をご覧ください。

現行ビジョンに記載してる令和元年度の統計と比較しますと、３０代の利用者率がやや減少し、そのまま４０代以降にスライドしている状況です。一方で、表の

一番下の、予約図書受取ロッカーの利用年代は、30代から50代がメインとなっており、来館での利用が難しい働く世代などの日常利用に結び付いているものと考えております。表の中ほどの、市駅前図書館の利用年代も、20代から40代の利用がほかの分館と比べて多くなっており、通勤途中などに利用できる立地による特色かと考えております。

以上が主な修正箇所です。次期の第5次ビジョンにつきましては、ICTタグシステムの整備が完結したのちに、サービス環境の変化などを踏まえて、現行ビジョンの最終年度、令和9年度に策定する予定です。グランドビジョン修正についてのご説明は以上です。

次に、令和6年度の第4次グランドビジョンの進捗状況について、ご説明いたします。

資料4-1、資料4-2が説明資料となります。資料4-1は、令和6年度の主な取組や課題などをまとめたもので、こちらに沿ってご説明いたします。資料4-2は、具体的な取組実績の一覧ですので、ご参考としてご覧ください。

それでは、資料4-1をご覧ください。

1ページはグランドビジョンの概要となります。基本理念をもとに、1ページ中ほどにお示ししている4つの運営方針を定めて、取組を進めております。運営方針ごとに、特徴的なものを抜粋してご説明いたします。

それでは、2ページをご覧ください。

運営方針1「生涯の学びを支え、人と人との交流を創出する図書館」につきましては、図書館の基本的なサービスの推進に係る方針となります。

「2 主な取組」の一つ目の黒四角、「図書館サービスに関する窓口アンケートの実施」につきましては、毎年度、図書館への来館者を対象とするアンケートを実施し、サービスの改善、充実に活用しているものです。「利用者満足度の推移」のグラフをご覧ください。令和4年度から令和6年度まで、概ね微増傾向ですが、情報発信のみ、令和6年度にやや減少しております。また、専門的サービス、イベント、情報発信の満足度については「無回答」の割合が高くなっており、利用者の関心自体の低さや、利用されていない状況が読み取れます。

このような情報発信の課題に係る取組につきましては、3ページ「3 主な課題と今後の取組」の一つ目の白四角「SNS、ホームページによる情報発信の充実」に挙げております。イベント実施後のアンケートによりますと、市の広報誌を見て参加したという方が圧倒的に多くなっておりますので、広報誌での発信をベースとしつつ、今年度はSNSにつきまして、図書館のXの予約投稿の機能を使うなど、定期的に発信する仕組みづくりを行っているところです。また、館内の掲示物につきましても、適時に更新されていませんでしたので、今年度は担当を決め、定期的に打合せを行う体制を作り、改善に取り組んでいるところです。

次に、主な課題の二つ目の白四角「電子図書館運営の方向性の整理」につきましては、限られた予算をどのように使うのか、手探りながら、取り組んでいるところです。紙書籍と電子書籍の使い分けを整理し、電子書籍の特性を生かした資料を選び、購入していく必要があると考えています。取組のひとつとして、複数人で同時に読める児童書の読み放題のコンテンツを継続的に購入し、市立小中学校の児童生徒に一人一台貸与されているタブレットから容易に閲覧できる環境整備を行ったところ、若年層の閲覧数が3倍近くに増加し、子どもに読書を勧める手段としても高い効果が出ております。これにつきましては、子どもの読書活動推進に係る次の案件でも詳細をご説明させていただきます。

次に4ページをご覧ください。

運営方針2につきましては、次の案件、子ども読書活動推進計画の進捗状況と重複しますので、そちらでご説明いたします。

次に、ページ下段にございます運営方針3「多様な利用者が利用できる図書館」につきまして、ご説明いたします。こちらは、読書のバリアフリーに係る方針となります。

5ページ「2 主な取組」の一つ目の黒四角「活字での読書が困難な人のための図書館サービスの実施」につきましては、読書バリアフリー法の趣旨を踏まえ、通常の活字による読書が困難な方の読書環境を整えるため、点字図書、録音図書、また、音声・文字・画像が同時に表示されるマルチメディアデジタイズ、対面読書など、さまざまな形式、手法で図書館資料を提供するサービスを行っています。サービスの認知度が低いことが課題となっており、市民向けの読書バリアフリーセミナーで様々な資料形態を体験してもらうなど、周知に取り組んでいるところです。図書館からの一方的なサービスにならないよう、利用者の要望、困りごとを丁寧に聞き取り、ニーズに合ったサービスにつなげられるよう努めてまいります。

次に、6ページをご覧ください。

運営方針4「効果的・効率的な運営による魅力的な図書館」につきましては、「2 主な取組」として、4点、挙げております。

令和6年度にオープンした市駅前図書館につきましては、駅直結の商業立地を生かし、これまで図書館を利用されていない層への働きかけができる場であると考えております。蔵書を新鮮な状態に保つのはもちろんのこと、市駅周辺の商業エリアや行政サービスフロアでの絵本の読み聞かせや図書館の利用案内など、新規利用のきっかけとなるよう、引き続き取り組んでまいります。また、市駅前図書館のオープンに合わせて、利用者の利便性向上、効率的な蔵書管理のために、ICTタグシステムの導入を開始しました。令和8年度に市内全館への導入が完了する予定です。貸出の自動化により生み出された時間をサービスの充実につなげ、利用者満足度の向上に努めてまいります。

次に、資料4-2の参考資料の最終ページ9ページをご覧ください。

重点的評価指標の推移について、サービス状況をより把握しやすいよう、一部、整理、追加をしました。追加した項目は、一つ目の「図書館サービスに係る利用者満足度」、下から四つ目の「実利用者数」、その下の「延利用者数」の3項目です。また、貸出冊数については、もともと電子書籍を含めた数値にしていますが、今回、「個人貸出冊数」と、「電子書籍貸出点数」「電子書籍閲覧件数」を分けて計上しました。「団体貸出冊数」はやや減少していますが、その他の項目はすべて増加しています。枚方市の人口が減少傾向の中、一定市民にご利用いただけているものと考えております。

案件3(1)のご説明は以上です。

原田議長 担当課の説明に対して、何かご意見、ご質問等いただければと思います。よろしくをお願いします。

原田議長 まず私から発言させていただきますが、全体の感想として、何より利用が多いというのが一番正直なところで、この規模の中ではかなり多いというのが正直なところです。ある意味で、日本全体の中でも特異点とも呼べるような活動ではないかと思いますし、頑張って活動されている成果だと思います。

このグランドビジョンそのものにつきまして、最終的に報告書が出るのでしょ

	うか。それとも、今進捗状況が出ていますよね。これらを公表される形になるのでしょうか。
事務局	これまで、進捗状況についてはこの社会教育委員会議の資料として公表しています。今回修正したグランドビジョンは図書館で公表をさせていただく予定でございます。
原田議長	ぜひこれはどこかでアピールとして使っていただければと思います。会議資料以外では見られる形にされてないということですが、全体としてアピールするところはもっとあるような気がするのです。また、その際に内容の表現方法についてもいろいろと考えていただければいいなと思います。例えば、細かな話ですが、前もお話ししたと思いますが、利用者の満足度は無回答の割合を入れなくていいと思いますし。
事務局	今年度の実施分については、そのご助言を踏まえて、一部無回答を抜いて集計しています。今回の資料は昨年度分ですので、無回答が入ったものになっています。
原田議長	わかりました。ただ、それなら特に去年と今年の違いがわかるように明示していただきたいと思います。誤解を招かないようにも。特に知らない人に対しての話は、それはそれで課題として別枠で書くべきであって、満足度は満足度で高い、一方で知られていない、もしくは必要ないというのは別の項目だろうと思います。
	それとともに、枚方市の大きな特徴として、全域サービスが全国的には注目されるという話が有名です。移動図書館車を含めた 2.5 km 内でのサービスというのが行われているマップ等が公開されているのも拝見したことがあり、枚方の図書館サービスが全国的に見ても頑張っているという説明もされることがある状況でございます。このあたり、市外の人は見ているのに中の人が見る資料に掲載されていないのはどうかという気がしますので、この報告書でも単に▲印でどこに行っていますだけではなくて、その範囲がどこまで影響しているのかという話も書いていただくことがよいと思います。また場合によっては、同一規模の自治体が数十あると思いますが、その中で枚方市が突出して多いという状況も書き込むこともできるのではないかと思います。
	さらに、電子書籍の利用が多いという話について、子どもたちの利用が多いというのはもっと誇るべき話ですが、単にこれが多いですよという文章だけで、数字が出ていないというのは残念です。利用回数がこのように多く目標を達成できているのですとか、子どもたちがそういうのを認識しているのですとか、または学習で使われているというお話については、ぜひ強調して書いていただければうれしいと思います。
	全体の中身については非常に頑張っているということを示していると思いますけれども、それがさらに強調されるような形で書かれても良いような活動をされているのかなと思って読んだというのが私の感想でございます。もちろん、当然のことながら、この手の活動というのは、やればやるほどいろいろな要望が出てくる話ですので、使ってらっしゃる方々に対して意見を伺って、良くしていただきたいと思います。ぜひいろんな方からご意見を集めていただければと思います。
原田議長	私ばかりしゃべっておりますが、利用された感想でも結構ですし、このグランドビジョンについてのご意見でも結構ですし、グランドビジョンの一部に係ることでも結構ですので、図書館の活動に関してご意見等をいただければ幸いです。

	います。よろしくお願いします。
原田議長	お考えいただいている間に、さらに私が二点お聞きしていいでしょうか。具体的には図書館の返却ポストの利用割合がどのくらいあって、どのくらい有効に機能しているのかというのが一点。もう一点は、市駅前図書館の滞在時間はどのくらいになるのでしょうかという点です。つまり、市駅前図書館が今どう使われているのか。来る人が多くいるのはわかるのですが、来て中で滞在して使っているのか、それとも来てすぐに帰る人が多いのかをどう評価されているのか教えてください。
事務局	まず返却ポストですが、現在、一日に2回返却本を回収しています。それぞれ満杯近くになっており、溢れてしまいがちな時もあるくらいです。現状として、皆さんに便利に使っていただいていると考えております。
原田議長	今いくつあるのですか。
事務局	市駅前のポストは一つです。駅構内の通路に設置しています。
原田議長	予約受け取りロッカーは82ボックスですね。
事務局	はい。
原田議長	予約受け取りロッカーは、どれくらい満杯になりますか。
事務局	ほぼ満杯で、待ちが生じている状況になっています。
	滞在時間については、感覚的なものにはなりますが、併設されている生涯学習市民センターとの共用ロビーで本を読まれており、じっくり滞在されている方が多く、席がなかなか空かない状況です。外の景色がよく見えるような居心地のよい椅子の配置になっています。一方で、駅直結という立地上、予約図書だけ受け取ってすぐに帰る方もいらっしゃいます。滞在時間の統計は出ておりませんが、すべての曜日で朝の9時から夜の9時まで開いていますので、それぞれ自分の使いたいようにうまく使っていただいていると考えております。
原田議長	他の図書館と比較してというのは難しいと思いますが、変わっているのか、それとも同じような傾向で使っているのかというのでいうと、やはり動きは違うものなのでしょうね。
事務局	居心地がいいというお声も聞いておりまして、いったん座られたらなかなか席が空かないようです。
原田議長	わかりました。ありがとうございます。
橋本委員	資料4-1の3ページの「電子図書館運営の方向性の整理」のところで、児童書の読み放題パックがすごく好評だということですが、例えばお子さんたちが読んだ後の感想というか、これは他のお子さんにもおすすめしたいよというようなコメントとかがクリックしたら横に出るとか。私は子どもさんの主体性が非常に大事だと思っていて、実は今とある市内の小学校の第三者評価みたいなものもやっているのですが、やはりその学校も図書室の中に図書委員のお子さんたちの推薦書籍とかを展示されたりしているみたいで、読んだもので他の児童へのおすすめみたいなコメント一行でももらえたら、それを載せてあげるだけでみんなモチベーションにもつながると思うので、お互いにそういう交流ができるようなコメントが載せられると、そして一年たったら新しいコメントに更新されるというような、そういうのがあってもいいのかなと個人的には思います。
事務局	電子図書館のシステム業者と相談してみたいと思います。また、電子図書館に限らず、子ども同士ですすめあうというのは、いい取り組みだと思います。
橋本委員	子どもさんも自分のやったことが他の人に繋がると、モチベーションにもなるし、より本が好きになることにも繋がるかなと思います。

ぜひ学校図書館などと連携してやっていただけるといいですね。国士舘大学の桑田先生の調査によると、圧倒的に子ども同士の推薦がプラスの効果があるという調査も出ておりますので、ぜひいろいろな仕組みを考えていただけると面白いかなと思います。

今見ていて感じたのですが、この指標に関する結果そのものがすごい状況を示していますね。新しい図書館が開館したからだと思いますが、それを抜きにしても、全国的にだいたい2～3%減少しているという中で、新館の部分を除いた、つまり令和5年度までの部分でも貸出冊数、入館者数ともに増え続けているというのは、全国的にもそれほど多くない状況ですので、頑張ってもらっしゃる証拠かなと思います。一方で、図書館活動も多様化する中で従来からの指標だけで活動の評価をずっと続けるというのは、たぶん難しいだろうという気がします。現在の指標は指標として、新しい図書館活動など今後の活動を評価する指標の開発その他も考えていただく方がいいかなと思います。先ほど伺ったことの一つでもあるのですが、滞在されている、そしてそれらについて館内で利用者が読んでらっしゃる時間が増えているという状況が多くなっているのであるならば、例えば、最近各地で調査が始まっているような館内利用ですとか、館内の滞在時間ですとか、もしくは館内で使ってもらっしゃる時間×館内利用ですとかも考えられるかもしれません。例えば京都府立図書館は、評価指標から貸出数を抜いて利用数に替えるということになりました。単なる貸出数に替えて、様々な利用を評価して係数を掛けて、全ての利用についての評価にしていくと。そうしないと、あそこは特に大きさに制限があるというのがありますけれども、もう頭打ちになって仕方がないという状況の下で、もともと増えないところを増やすという努力をするよりは、新しいサービスに注力して利用者に満足していただくという趣旨だと聞いております。また、東京都の足立区立の図書館についても、貸出冊数というものを評価指標から外して、アウトプットではなくアウトカムへ、つまりどのような利用をしたことによる効果があったかという指標に替えようという検討が始まっているようです。日本中でみなさん様々な本が手に入るという状況にあり、インターネット上で情報が手に入るという状況を受けて、図書館の役割の中でも、単純に本を提供するのではなく、どのような本をどのような形で利用していただくことが図書館に対する満足度につながるかを評価する指標にしていこうという動きが出ています。もちろん、すぐにこういうものがということはないですけれども、重点的評価指標につきましても、次の第5次グランドビジョン等を作成されるとき参考にもなるように、第4次の結果をまとめる際にも参考にいただければと思います。そういえば、同じような意味で先ほど質問したのですが、滞在型というのは今回グランドビジョンには入れてもらっていませんけれども、市町村立がそれをやるべきかどうかについては異論もあるものの、特に新しく建った図書館というもののの中で滞在時間というものを重視する図書館というのも増えてきております。大きさの問題と立地の問題その他がありますので、一概にここがそれを採用するのがよいかどうかはわかりませんが、滞在型というのもグランドビジョンに入れられるのかどうか、入れられるとするならば、それはどの図書館でどのような形にするのかといったあたりを検討していただくというのがいいのかなと思います。他のところに先駆けて、実は第4次グランドビジョンの中にいろんな指標が入っていたのは面白いなと思って読んでいたのですが、第4次から第5次の5年間に様々な変化が起こっていて、他の図書館もこういうのを入れていかれるのであれば、逆に他の図書館が入れていてここにはない

ものもありますので、それらも含めて検討していただければいいのかなと思いました。

原田議長

今すごく頑張ってらっしゃるというのが評価される状況だと思いますが、一方で、継続していだけでいくと、まっすぐ横に行くというか、現状維持はマイナスだという話もあります。是非、何らかの形で少しずつ進んでいく図書館像というのを考えて検討していただければうれしいなと思いました。

一人でいっぱいしゃべってしまって申し訳ありません。先生方がいいでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、第4次グランドビジョンについては報告ということでもございますので、続いて、「(2)令和6年度(2024年度)第4次枚方市子ども読書活動推進計画の進捗状況」について、担当課から説明をお願いしたいと思います。

事務局

それでは、令和6年度(2024年度)第4次枚方市子ども読書活動推進計画進捗状況についてご説明いたします。

本日は、資料5-1を中心にご説明いたしますので、資料5-2は参考資料としてご覧いただければと思います。

それでは資料5-1をご覧ください。

Iの第4次枚方市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方 ですが、基本目標には「読書が子どもの『生きる力』の育成に効果的であることを踏まえ、すべての子どもが読書習慣を身に着け、より多くの本を自発的かつ継続的に読むようになるよう、家庭・学校・地域が連携・協働して、発達段階に応じた子ども読書活動の環境づくりに取り組みます。」としております。そして、この基本目標を踏まえ、家庭・地域・学校とそれらの場すべてに関わる図書館の取り組みについて、4つの基本方針を柱といたしまして「子どもの読書活動の具体的な施策を展開し、推進する」ものでございます。

それでは、IIの令和6年度の進捗状況 について順次ご説明いたします。内容につきましては、基本方針ごとに主な取り組みについて、特徴的なものを抜粋してご説明いたします。

まず、基本方針1「家庭における子ども読書活動の推進」につきましては、最初の黒四角「プレママ・プレパパや乳幼児の保護者を対象とした絵本読み聞かせ講座」についてです。この講座は、各図書館で実施されていますが、中央図書館においては「赤ちゃんを楽しませよう」と開催し、乳幼児期における読み聞かせの大切さ、絵本の選び方、親子での楽しみ方などについて、実演も交えて講演を行いました。

また、三つ目の黒四角「図書館利用の推進」につきましては、新たな取り組みとして、通帳型の読書手帳「ひらかたブックダイアリー」の運用を令和6年9月にオープンした市駅前図書館を皮切りといたしまして、順次、中央図書館および分館で開始いたしました。

次に、基本方針2「地域における子ども読書活動の推進」につきましては、2点ご説明いたします。1つ目の黒四角、「母子保健事業における読書活動の推進」では、枚方市駅直結のステーションヒル枚方の中に、6階にまるっとこどもセンターと5階に市駅前図書館が併設したことによりまして、相互に連携が行われ、乳幼児や保護者に対する読書へのアプローチが飛躍的に進みました。特に乳幼児健診時に図書館が継続しておはなし会を実施する取り組みや4か月健診時に読書通帳「ひらかたブックダイアリー」を配付する取り組みについては、健診後

に5階の図書館を訪れる様子も見られるなど、読書推進に貢献していると考えております。

資料の2ページをご覧ください。上から4つ目の黒四角「地域のボランティア等による読書活動の推進」では、図書館での読書活動推進団体の登録数が増加したことで、年間の団体貸出冊数も約2,000冊増え、約3万6,000冊となりました。

次に、基本方針3「学校における子ども読書活動の推進」の取り組みにつきましては、1つ目の黒四角「児童・生徒の読書活動推進」についてご説明いたします。特徴として挙げられるのは、子どもたちのひらかた電子図書館の利用が飛躍的に増えたことです。要因としましては、小中学校でタブレットを活用した授業が定着し、タブレットが子どもたちの日常的な学習に浸透したことが考えられ、このことが利用促進に繋がったものと思われます。

次に、基本方針4「図書館における子ども読書活動の推進」につきましては、4点についてご説明いたします。資料3ページをご覧ください。

一番上の黒四角「環境整備」においては、電子図書館の充実として、複数の児童・生徒が同時に閲覧できる「児童書の読み放題コンテンツ」を440タイトルから562タイトルに増やしました。また、選書にあたりましては、コンテンツの内容を朝読書や調べ学習などにも活用できる魅力的なものに入れ替えるなど工夫いたしました。一方で、利用促進の取り組みとして、児童・生徒のタブレット端末のホーム画面にひらかた電子図書館のショートカットアイコンを設定することで、アクセスし易くする工夫をしたことによりまして、電子図書閲覧数が令和5年度では約5万件だったものが、令和6年度には約15万件と約3倍になりました。また、来館することなく電子申請によって図書館の利用登録ができる「スマート登録」においては、18歳以下の層で、電子による登録申請の増加が見られました。こうしたひらかた電子図書館のコンテンツの充実や利便性向上といった取り組みは、子どもたちの読書習慣の定着や学習意欲の向上にも繋がっているものと考えております。

次に、2番目の黒四角「広報の推進」では、電子図書館のPRの回数を増やすなどの取り組みを行うとともに、「スマート登録のご案内」や「ひらかた電子図書館のリンク先」をホームページやSNSの発信に合わせて設定するなど周知の強化を図りました。また、リーフレットやポスターに二次元コードを掲載するなど、より簡単にアクセスできるようにしたほか、学生層への働きかけとして、図書館の自習コーナーの机にひらかた電子図書館の二次元コードを貼るなど、様々な機会をとらえてPRに努めました。

次に、上から四つ目の黒四角「子どもの読書活動および学習活動の発表の場づくり」では、中学生が日頃、疑問に思ったこと、興味があることなどについて、学校図書館や市立図書館の本を活用して調べ、分かったことをまとめて作品にしたものを展示する「中学生の調べ学習コンクール」を開催し、市内11中学校から252点の作品の応募がありました。12月に開催した「ひらかた朗読大会」では、小学2年生から中学3年生までの参加がありました。冒頭のリハーサルに行われた子どもたちの朗読に対し、関西朗読家クラブ代表の端田宏三先生から読み方のアドバイスをいただくことで、短時間のうちに子どもたちの朗読は、一段と上達し、本番の朗読では、子どもたちは落ち着いた様子で、心を込めてゆっくりと丁寧に朗読することができました。

次に、一番下の黒四角「市民との協働」の取り組みでは、中央図書館でボラン

ティアのスキルアップ等を目的に交流会や研修会を開催いたしました。研修会では絵本学研究所を主宰する正置友子さんを講師に招き「生きるための絵本 絵本と言う宝物を子どもたちに手渡すために」という講演会を開催しました。研修に参加されたボランティアの方々からは、絵本を深く読むことの大切さを知ることができた、成長する子どもたちに絵本を届ける者の心構えを再認識することができた、などの感想をいただきました。このような取り組みの効果によって、地域でのおはなし会の開催回数も着実に増えてきているところです。

最後に今後の取り組みについてご説明いたします。

今後は、まるっとこどもセンターで行われる健診時の読み聞かせの継続実施に加えまして、同センターで開催される講座などに関連した図書の紹介やコラボイベントの開催などを視野に、更なる連携強化を図ることを考えております。また、6階フロアで健診や各種講座が催された機会に、ひらかたブックダイアリーの活用方法や図書館で開催するイベントの案内を行い、親子での図書館利用に繋げる仕掛けづくりに努めるなど、「読み聞かせ」というツールによるふれあいを通した読書習慣の大切さや楽しさを知ってもらえるよう取り組みを進めてまいります。

学校での読書活動の推進では、教育指導課、教育研修課と連携してニーズに合わせた資料の確保に努めるとともに、朝読書などでも活用できる電子図書館のコンテンツの更なる充実を図ります。特に電子図書館においては、読書習慣の確立の一助となるよう、いつでもどこでも好きな時に読書が楽しめる環境となるタブレットの活用を支援してまいります。また、中央図書館の役割といたしまして、絵本などの図書館資料の充実にも努め、配本も含めた団体貸出の利便性の向上を図ることで、子どもの読書活動をより推進できるよう環境を一層整えてまいります。

令和6年度（2024年度）第4次枚方市子ども読書活動推進計画進捗状況の説明は以上でございます。

原田議長 担当課の説明に対して、何かご意見、ご質問等、お願いしたいと思います。

子ども読書活動推進計画でございますので、ずっと話題になっておりますけれども、家庭だけでなく、地域・学校図書館を含めた様々な活動についてご意見をいただければと思います。

原田議長 私の方から簡単なことをまずお伺いします。資料5-1の3ページ目の一番上の四角で、5万件の閲覧数というのは、何を数えた閲覧数ですか。つまり、本の数ではないですね。

事務局 閲覧回数です。

原田議長 440タイトルのダウンロード回数と申しますか、読書回数というのは何回ぐらいいかというのはございますでしょうか。

事務局 個別の閲覧回数は統計としては今は持ち合わせていません。

原田議長 これは確か同時アクセスは無制限ですよ。無制限なので、何人でも読めるから大量に読まれている気がするのですが、理由も少し知りたいですね。それに関する詳細なデータが提供側から出されないのか、それとも今手元にないのか、どちらでしょうか。もし取れば教えていただけたらうれしいと思います。実際にこの回数が非常に多いというのは他の図書館関係者とのミーティングでも話題になるくらい注目されています。これがどのような理由でなのかとか、どれくらい効果的なのかということがわかればうれしいと思ひまして。よろしく申し上げます。いずれにしても電子書籍がこれほど読まれているのはすごいですよね。本当

事務局 森副議長	<p>は、440 タイトルから 562 タイトルに変わった時に、どう変化するかといったあたりも取れるとうれしいのですが、データをくれるかどうかですね。</p> <p>システムの業者と話をしてみます。</p> <p>今の話と少しリンクするかもしれませんが、この件数自体はすごく多いと思うのですが、学校の時間内に閲覧している件数と自宅で閲覧している件数がもしかたったりするのであれば、読書がどれだけ日常に定着しているのかということが見えてくるとと思いますので、取れるデータなのかどうかは存じませんが、わかれば教えていただきたいと思います。学校だと強制的にアクセスさせられている、こういう言い方はよくないですけども、もちろん習慣になるのでいいと思いますが、その辺りもし知れたらありがたいと思います。</p>
事務局 原田議長	<p>システムの業者と話をしてみます。</p> <p>もし取れなければアンケートで追加するのもいいかもしれませんね。朝読書で読んでいる場合と、そうではなくて読んでいる場合。特に読書そのものは減っているという調査はないのですが、一方で自発的に読む読書の形が変わってきたというのは言われるので、そのあたりはずいぶん関係しますよね。時間で取れたら面白いですね。</p>
森副議長	<p>大学生に聞いてみると、高校の時に一冊も本を読んでいないという人もかなり目にするので、定着を図るところでは学校外というのがどうなのかなというのを知れたらありがたいと思います。</p>
原田議長	<p>これくらい大幅に使われているのだと、子どもの本については、少なくとも複本は切ってしまって、電子書籍にするという選択もあるのかなのかという話は、図書館的には面白い話だと思います。図書館で購入している本を減らすのは実際には難しいかもしれませんが。やはり予算の制約がある中で電子書籍を増やしていくというのは、どこの図書館も苦労されることだと思うのですが、その場合に、利用というものと合わせて状況の変化というものを作れるのかどうか。もしそれがあるとするならば、子どもの本に関しては一般的な本を減らして電子書籍に替えていく、大人の本に関しては逆に紙の本を増やしていくというような方法も考えられるでしょうし、場合によってはそうではなくて紙の本が有効だということで、電子書籍の利用というものはこの読み放題に特化して、それ以外のものについてはもう紙の本を買うのか、そのあたりを分析していただいて今後につなげていただくことが重要かなと思います。特に今大きく子どもたちの読み方が変わってきたと言われる中で、そう言うけれど学生に聞くとあまり電子書籍を読んでない、マンガ以外読んでないという学生が結構いるものですから、それが本当なのかとったりすることもあり、なかなか難しいのですが、その辺りを裏付けのある形で図書館側の運営に活かしていただければより効果的なのかなと思います。</p> <p>また、読書というものの定義についても考えていただくのがいいのかなと思います。例えば、最近、読書というものの定義そのものを変えた自治体もいくつか現れ始めています。例えば、東京都の足立区・豊島区あたりは、その活動方針の中で、WEBページの閲覧、電子書籍の閲覧も読書に含めるという形の定義づけを行って、読書の推進を図るという風に言っています。なかには YouTube まで含めて様々な情報収集、それは情操学習ですとか、もしくは感受性や創造性を高めるという意味では普通の本がよいが、調べ学習や様々なものを探すということについては YouTube などと同じように効果があると。なので同じように読書と言っても、調べる学習とそうでない学習があるというふうに両面があると捉えて、そ</p>

の両面に利くような形で読書を定義するということも出てきています。学校図書についても、学校図書館協議会も同じように、読書の定義を広げたような表現を書かれているところもあります。そういう意味で、読書そのものの活動というものの中で読書そのものが変わってきたとするならば、読書活動の対象も変わりますよね。それを枚方市はどのような形で捉えていくのかということは、ある程度明確に書く必要が出てくるという話と、それからそれに応じて活動をどうするのかということについての計画を立てられるという両方が求められるのかなという気がいたします。今回の場合、第4次の計画の中では、計画を途中で変えると前提条件を変えて調査をすることになるので、ダメだと思いますが、次の活動に繋げるような形でそれらについても追加して入れておき、そして次の活動を策定されるときに計画されるとか、もしくは変えないための根拠として使うとか、そういう話もされた方がよいのかなと思います。進捗状況そのものは今お話しいただいた中で非常にきれいにまとめていただいて委員の方々もよく分かったと思うのですが、ぜひプラスアルファというのも次の段階では考えていただければうれしいなと思いました。

何より、この数そのもののお話しだけではなく、活動が多様に行われているというあたりは特に素晴らしいと思いますので、ぜひ継続していただければと思いますし、タイトル数に関しては440から562というお話を越えて、この数というものが500ではなくその上を考えていったときにどのように変わっていくのかというあたりの推計や、もしくはそうなった時の準備をしておくのがいいのかなと思います。ぜひご検討いただければ幸いです。

原田議長

読書活動に関しましては、家庭におけるものも重要でございますので、ぜひ様々な活動を見ていただければと思います。委員の皆様方、いかがでございますでしょうか。何かご意見等がございましたらお願いいたします。

実際に、活動が活発に行われているということで各委員の皆様方も読んでいただいて満足していただけるのかなと思いますので、まずは継続していただき、続けていただければと思います。ありがとうございます。

続いて、「(3)令和7年度(2025年度)図書館サービスに関する窓口アンケートの結果」について、担当課から説明をお願いしたいと思います。

事務局

それでは、資料6をご覧ください。

このアンケートは毎年度実施しており、第4次グランドビジョンの取組の評価、利用者ニーズの把握、サービスの向上のために活用しています。8月1日から14日までの14日間、市立図書館の全施設と自動車文庫において、図書館の利用者に回答をお願いし、1,693人の方に回答いただきました。今回から、アンケート用紙にWeb回答用の二次元コードを記載し、紙でもWebでも回答できるようにしたところ、回答者数が昨年度の1.4倍となり、500人程度、増加しました。全体的な集計結果は、例年とほぼ同傾向となっております。資料にそって、特徴的なものを抜粋して、ご説明いたします。

1ページの問2をご覧ください。回答者の年齢層については、60代、70代で半数以上を占めています。実際の利用では、40代、50代の比率がもう少し高くなりますので、利用実態よりは、60代以上の意向が強めに反映された結果となっています。

問4の電子図書館の認知度につきましては、昨年度と比較して、「知っている」と回答した人の割合は増加した一方で、「利用している」と回答した人の割合は昨年度とほぼ同じという結果となりました。窓口での案内のほか、各館で使

い方講座を実施するなど、実際の利用に結び付くように努めておりますが、電子書籍のタイトル数の充実にも関わるかと考えております。

次に2ページをご覧ください。問6の電子図書館への要望につきましては、例年と同様、タイトル数の充実を希望される方の割合が最も高くなっています。限られた予算の中でということになりますが、図書費を使わず効果を上げる工夫として、例えば、今年度は大阪関西万博のパンフレットや、枚方市の郷土資料を電子化したものをアップしたところ、一定の利用がありました。購入と併せて、地域独自の資料をアップしていくことも進めていきたいと考えております。また、複数人で同時に利用できる読み放題パック、例えば、学校での朝読書に使える児童書や、旅行ガイドや、音声読み上げ機能付きの書籍など、電子書籍の特性を生かした資料をそろえ、「使ってみたい」と思っただけできるよう、工夫していきたいと考えております。

次に、3ページをご覧ください。問9の専門的なサービスに関する満足度の算出につきましては、昨年度こちらの会議でいただいたご意見を踏まえて、専門的な「サービスを受けたことがない」と回答した人を母数から除き、より実態に近い数値が出るように変更いたしました。サービス利用者の満足度は84%となっておりますが、「サービス提供を受けたことがない」と回答された人が全回答者の半数を超えておりますので、情報発信の課題とも連動させ、サービスをもっと身近なものとして知っていただく工夫が必要であると考えております。

次に、4ページをご覧ください。問13の自学自習スペースへの要望につきましては、昨年度と比較して、「静かな空間」を求めると回答された人の割合が6.3ポイント増加しました。この点につきましては、昨年度オープンした市駅前図書館のコンセプトにもかかわっていると考えております。併設の生涯学習交流センターとの共用ロビーでは、飲食も可能としており、上のフロアでは乳幼児健康診査が実施されるなど、小さなお子さん連れの利用者も多く、静かにしないといけない図書館ではなく「和やかな」図書館という方向性で運営しております。実際に、交流ロビーで自習をされている方からは、静粛な環境を要望するとご意見をいただくこともあり、その都度、ご説明させていただいているところです。

問14の情報発信に関する満足度につきましては、昨年度と比較して、6.8ポイント増加しているものの、67.7%と依然として低い状況です。さきほど、案件3(1)グランドビジョン進捗状況の課題としてもご説明させていただきましたが、適時に発信できる仕組みをつくり、取組を進めてまいります。

また、自由記述欄にも多くのご意見をいただきました。例年、読んだ本の履歴を記録したいという要望が多数寄せられていましたが、昨年度に、紙の読書通帳「ひらかたブックダイアリー」と、WEB上に記録できるシステムMy本棚のサービスを開始したところ、「便利になった」「とても嬉しい」という声を多数いただきました。また、図書館職員のおすすめ本を教えてほしい、といった期待の声も多くいただいております。おすすめ本をパックして貸し出す「本の福袋」イベントや、おすすめ本コーナーの設置など、各館で随時実施しておりますが、さらに充実できればと考えております。また、環境については、図書館は静かな空間であるべきという声も、一定数いただいております。その他、いただいたご意見について、各館で対応可能な部分から速やかに改善していくことを、全館で共有しているところです。

案件3(3)のご説明は以上です。

原田議長

ありがとうございます。面白いお話がたくさん出ていると思いますが、いか

	<p>がでございましょうか。</p>
原田議長	<p>静かな環境に関して、静寂読書室というものの設定はどのぐらいされていますでしょうか。特に駅前や大きな規模の図書館ということですが。静かでない環境というものに比較的許容範囲が広い図書館という意味ですが。</p>
事務局	<p>静寂読書室の設置はありません。</p>
原田議長	<p>わかりました。ある程度大きな図書館ですと、静寂読書室というのを設けて、もしくはブースを設けて、そこに関しては全体的に静かにしろという形のゾーニングをされている例もあるのですが、そういうのもされていてなおかつこの意見が出ているのかどうなのかと思ひまして。</p> <p>アンケート結果は、非常に面白い結果だと思います。WEB調査も含めてですが、WEBとそうでないというのは、集計を分けて行うことも可能なのでしょうか。</p>
事務局	<p>することも可能ではありますが、今回は一緒にしております。</p>
原田議長	<p>そうなのですが、分けてやった場合にはどこか違いがあるのかなというのは興味があります。特にWEBアンケートを始められた段階においては分けての分析もされておいた方がいいと思いました。つまり、分析をするときに、昨年度までの状況との変化を見るためには紙の状況との比較を行う、もちろん今年のものに関してはWEBと合わせてでも構わないのですが、そういう形にしないと、大きく変化したのかどうかというのがきちんと読めないかなと思ったものですから。たとえばWEBの部分を除いた調査というのも内部的には作って、昨年度との比較はやっておいた方がいいのかなということがございます。昨年度も申し上げたと思うのですが、この手の調査は 50 代・60 代が多いということからもわかりますように、やはり来ている方になってしまうんですね。一方で、先ほど予約ロッカーを使っている人の数というお話があったように、来館されていない方も利用が増えてきている、またはそれに興味を持った方がいらっしゃるのはわかっている、その方からのお話を聞くというのは、それこそ予約ロッカーの前に少なくともWEBのアンケートを貼っておくとか、そのような形で、来館されているけれどもアンケートに答えにくい方についても取れる仕組みであるとか、もっとさらに進めて、これは市の協力を得ないといけないのでなかなか難しいですが、市の広報の中に混ぜ込んでいただいてWEB調査に関しては少なくとも答えていただくとかいう話もあっていいのかなという気がいたします。実際問題として、私どもが大学で行っております調査によると、現在の 60 代後半の方まではWEB調査についての抵抗が少ないということがだいたいわかってきています。おそらく今から 10 年以内ぐらいにはより広い範囲の人々が様々なWEB調査というものについて抵抗なく普通に行える状況が近くなってくるのかなと思います。ですから、そういうものに備えてでもノウハウを蓄積していただくといいのかなと思いました。</p> <p>それから、Q9の「サービス提供を受けたことがない」という方の割合ですが、これは昨年もお話をして直していただいて、レファレンスサービスに満足されている方が多いというのが出てきたというのは、これは図書館員の方がきちんと答えているということを示すという意味で非常に有効だと思います。一方で、今後活かしていくとするならば、このデータに関してだけは、定量プラス定性がほしい。つまり、不満についての分析というものがほしいと思います。不満というものに関して、多くあるのは「見つからなかった」という不満が結構あるのですが、「見つからなかった」の不満なのか、「見つける過程で問題があった」</p>

の不満なのかによって、図書館の関与が全然違ってくるということになりますので、その辺りの定性分析をしていただくと、この調査に関しては有効なのかなと思います。その辺りも含めて、昨年度の調査結果と今年度の調査結果を同時に載せておいていただけるとよかったかなと思います。先ほど述べたように、紙の調査の比較だとすると別のものになるかもしれませんが、そういうのを並べていただくと、どう変わっていったのかがわかってうれしいと思います。またこういうのを出していただける時には、変化もわかるようにしていただくと、各委員の方々についてもいろいろと見やすいと思いますので、次の時からでも追加していただければと思います。個人的には、先ほどの話の中で、記録を取るということの意味が、単にその人が喜ぶというだけではなくて、そういうことを行った結果と連動するような形で図書館に対して本の推薦が出てくるとか、記録を取るということ自身がいろいろなよい効果を与えるというあたりは非常に面白く感じましたし、とても楽しく読ませていただきました。

原田議長

アンケート結果をいろいろと見ていただいて、ポイント等あるかと思うので、ぜひお願いします。

また、アンケート結果だけに限らず枚方市立図書館の事業について全体的な話でも結構でございますし、その前の教育政策課の社会教育事業についてでも結構でございます。お気づきの点が見つかりましたら、ご意見をあげていただければ幸いです。お願いいたします。いかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。それでは、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。各委員の皆様におかれましては、枚方市が各種の社会教育事業を頑張っているという状況ですとか、数多くの事業の具体的な状況、さらには人々がたくさん集まっている状況を見ていただいて、ある程度評価が高いということも感じていただいたのかなと思います。今後に繋がるご意見もたくさんあったかと思っています。実際にこれらについての中身を見ていただいたというところで、ご発言いただけなかった皆様に関しまして、評価が高いということで満足して見ていただけたという部分もあるのかなと思っております。もちろん、いただいた意見を踏まえ、またこれらをもう一度見直して一層の発展を期す形で事業を進めていただければと思います。まずは、皆様の方から特にご異論がなかったという形でまとめさせていただき、また、このような形を踏まえてより進めるような形で進めていただきたいという要望でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。

それでは、最後に、案件4の「その他」として、事務局から何かございますか。

事務局

本日はありがとうございます。本日の資料等について、追加でご意見をいただける場合などは、11月20日（木）までに、お電話、ファックス、メール等により、事務局までご連絡いただければと思います。また、本日の会議録につきましては、これまでと同様、事務局で案を作成のうえ、委員の皆様にご確認いただき、ホームページ等で公表していきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

原田議長

ありがとうございます。それでは以上をもちまして、本日の社会教育委員会会議を終了いたします。みなさんお疲れ様でした。

【閉会】